根城中

主体的に学ぶ生徒の育成

～課題設定の工夫と振り返りを通して～

（３年計画の１年次）

校長　　竹　花　和　人

１　研究主題について

昨年度までの校内研究も同じ主題で取り組み、「課題設定」「振り返り」について、新学習指導要領に沿って、さらなる研究が必要であるという結論に至った。そこで、今年度からも、校内研究主題を変えずに、研究の視点を変えたり深めたりして、進めていくことにした。

具体的な研究目標を、①問題解決的な授業づくりのための「課題設定」②内言をつなげ、熟考させるための「振り返り」とその活用であるとし、ＩＣＴの活用についても追究したい。

今年度は、研究目標①を中心に研究し、音楽科で研究授業を行い、生徒自身から問いが生まれてくるような課題設定や導入のしかけについて研究した。また、総合的な学習の研究授業も行う予定だったが、コロナ禍で計画が進まず、実施に至らなかった。来年度は研究目標②について、最終年度はまとめとして研究目標①・②について授業実践と仮説の検証をし、まとめたい。

２　研究のねらい

「しかけ」「思考のズレ」「問題発見」をキーワードに導入や課題設定を工夫した「問題解決的な授業」を目指し、文字言語を用いた適切な「振り返り」とその蓄積、活用によって主体的に学ぶ生徒を育成する。

３　研究仮説

教師が「問題解決的な授業」を意識して、実践することによって生徒は興味・関心をもち、自ら学び課題解決に向かうようになる。また、自己の学びについて熟考し、文字言語によって、のちに生かせる振り返りを行うことによって、主体的に学ぶ生徒が育成される。

４　研究内容

(1)　「課題設定」の工夫

ア　「思考のズレ」を生み出し、生徒自ら「問題発見」につながるような「しかけ」作りを考え、実践する。

イ　実践したことを教員同士で共有し、互いの取組を振り返り今後の実践に生かす。

(2)　その他の研修

ア　自発的な行動を促進する「コーチング」について、講師に生徒対象の講座を開いてもらい、教員が研修する。その後、教員同士で振り返り、意義や手法を学ぶ。

イ　一人一台端末研修

授業や行事、特別活動等での、さらなる活用を目指す。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
5	25	要請訪問　音楽科研究授業（３学年） 授業者：青木なお子　教諭　　助言者：石井　一二三　主任指導主事 「しかけ」として、①自分たちの現時点での歌声を録音したものを聞く②先輩や他校生の歌声を比較鑑賞することを行った。これによって、実力を客観視し、イメージとのズレを自覚し、必要感と改善すべき観点をもつことができていた。さらに、「理想的な歌声」はどうあるべきかを比較鑑賞から考え、曲の構造を理解することで上達していた。「比較」や「実態を録画や録音で俯瞰する」こと、「振り返りながら進める」ことの有効性が明らかとなった。指導助言から、指導（課題設定）と評価（振り返り）の一体化が課題として残った。
6	15	教育指導課・総合教育センター訪問 音楽科以外の教科で授業を行い、助言をいただいた。教師から課題を提示している授業が多いので、生徒から引き出す工夫が課題である。
1	7	「総合的な学習と学校作り」研修　　講師：校長　竹花　和人 生徒の考えや実践が、地域を巻き込むことでアップデートされていく総合的な学習作りの事例を交えた講話により、来年度からの総合的な学習の展望が示された。
1	14 ～ 31	校内授業参観週間 延べ２８人が授業を参観した。互いに見合うことで、自分の授業を振り返ったり、新たな指導法に気づいたりすることができた。また、校長による道徳授業が複数回行われ、授業改善の指標が得られただけでなく、研修に向かう雰囲気が高まった。

(2) 一般研修

月	日	内容等
4	2	「ロジャー研修」　メーカーの方による取り扱い方に関する研修
4	28	「一人一台端末の活用」研修（オンライン）　　講師：石井一二三　主任指導主事 ChromeBook を利用し、クラスルームを作ったり入ったり、MEET への入り方など、基本的な操作方法についてオンラインでご指導いただいた。
8	19	生徒対象「わくわくする未来の作り方」 教師対象「コーチング研修」　講師:NPO 法人　夢コーチング RYOMA 塾　津村　柾広　氏 生徒対象の 1 時間半の講座を教師が見学し、そのあと教師対象の 75 分間の研修を実施した。メンタルには「強さ」「弱さ」があるのではなく、整っているか、ぶれているかの違いが結果の違いとなるという話から、心の整え方の演習が行われた。体や言葉を使う方法や、結果目標ではなくチャレンジ目標を立てるなど、自律する人間を育てるための多くの示唆が得られた。継続してご指導いただきたいという声が多く上がった。
10	28	「心のケア」研修会　講師：八戸学院大学短期大学部　幼児保育科　教授　野口　和也氏 一人一人の生徒の特性に対して、どう接していくかを具体的にご指導いただいた。本人が使う言葉のレベルと文の長さで語りかけること、自分を強く大きく見せたい発言を、言い換えさせてあげることなど、大変参考になった。

６　研究の成果

(1) 研究授業は１回しかできなかったが、比較することで生徒から問いを引き出す手法や、「振り返りは」は終末だけではないこと、また、学び取らせるべき内容をしっかりと教える場面と、生徒が主体的に課題を追究していく場面を教師が意図的に作っていくことの必要性も確認できた。

(2) 「コーチング」と「心のケア」研修において、生徒の心にどのようにアプローチするべきか具体的な手法を多く学ぶことができた。この研修は、これからも継続して機会を設けたい。

７　研究の課題

(1) 「問題解決的な授業」のための課題設定について、どのようなやり方があるかさらに研究が必要である。また、「しかけ」を工夫すると、時間がかかるので効率よくできる方法を模索していく。

(2) 「指導」と「評価」の一体化について、ChromBook を活用しながら、さらなる研修と研究が必要である。

（記入者　元沢　優佳）